へ13
3542
4

門 へ 13
号 05.12
巻 1

早稲田大學図書館
昭和31.10.5 受
藏書

本朝美譽利巻之四

青山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

フウアリる人ゝさくいとしやとうひて駅一人り
ゝるる所ゝゝを出ゝまり金右衛門ず物くし
らとき〻悪くゝし山下てもあの方面線
を行ゝで山ゝたるで宮ゝ山ゝ居てゐぎり
ませゝきゝせゝ下されといえともてうゝを
れ行つ行ゝで行ゝいゝゝゝたくつたせん
方ゝゝ一礼いゝゝゝを出ゝ行ゝ〻〻〻〻〻〻〻〻
ゝ〻〻角紙屋の行ゝいゝゝしい米乃家
ゝ毒ゝ米のゝゝゝゝゝあゝゝば家無乃
ゝ米ゝ〻人ゝ有りゝゝゝハせんゝ行ゝゝゝゝ

山さうり行ゝ人ゝまいりゝゝゝ先行ゝゝゝゝ龍角
山度の米ゝ私一人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行ゝゝで山神ゝゝゝゝゝゝゝゝ一人ゝを出たゝけ
ゝゝいゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝり西居合をゝゝ人ゝ問ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ行ゝ国ゝの行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝる和道を出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ家ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
八紙屋国ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人を出し家屋敷に行くと祇園とかん
屋しやと名づけあれば いろを出きす
ものし紙面へ行けば ほうちの紙をみる
しゝ嘲しゝうへあちらめをけちやく
名ばかりをたのむべし とろ筆を宮めば
御やへ御いらゝと あをきをどと
行をいうば法華ばかりの事をつゞき
ようし教ゆるれば 御仏あやまれ
いろ書事ばかり行をとるして笑ふ
まゝあのちゝきさまのあるべいば

祇園の稚子ばかりとかあり きれば
法華ばかりばかりきれば おとろきあり
初めの事ゝゝ 法りし事今さら 腹
悔やまれる甲斐なし いう物もつて 死を
をしゝ止めしやうん そうこう 娘がつゝ 近
てくれるもの事ゝとさりとて 金兵衛き
ませぬといひれば ばかりそのの 稚子
は祇園の法りれば そのの 弟上 者
ようし長しきを人は 娘 行とば 家人の 聟
をとり度と日ゝ法 新人も 世間をさがも

山あいぢこゝる松はやをつゝを幸いひう留
留き物をつゝて逝さを途中にて掛ふく
ヤレふ氣ものよふ重き者をつけその
利をおそゝ〳〵こゝ藤衣をひかし一命
をも乃ぶつきあの物のうけきよりく
芝燃るく年よ生るふ深年山ろ
ゝちとゝや翁をゝつとふ石海法ハ
山を金つう新ぬ者ゝ作ぬゝしめ
立家ふちゝ物も鎌倉所の
ちさゝ〳〵ゝ白ゝの者ゝ〳〵ひつけ

ゝくゝ新年それ四〳〵りかのたゝやゝ教
ゝゝゝ

人のしり動かるる事しるべしとぞ
世間にて山猫を
まを生ずるよ動もゆるがせ
ぬ所にて
るゆ形ひやまずかゝるとき
濁ごとくにて
事をとりて猫
らしらぬ
ぬとをつぼやとほをつかふ
る猫色物の方うり
主人おきて
あれ猫よいをかしや
大きる後生
をしやれとをひとは
傳をの尾
ほどややよ
見しなかたまけ
先事をれ
こる猫を
はあれ猫のちきい

意趣しり給ふも初めまゐぬがうそ事
がのうそをつくまづうそをつくに思ひつきもれて
裏口の方へ廻りて窺ひ見るものを
聞あらをとけ先蒙を埋ろと清めるや
かて夢中サアそれ二階へ上りもれて
髪おのの方をを出しそれへ海を
入れ二日でもこの日でもかまはずいうなび
夢をせば嘘もさしかるめしハ入もて
もせまもう毒液が仕ようハ山盛をのれも
まる陸の言のせめやよさもれ彫刻が

出るあるうをを毒をきくぬやうよ掘ると
やれく細うるこひめ取海を毒ハあを絞し
く島もせぬやうあり屋たり者利
彼老母も新戸ざとうでうやり定命
ばりうを毒よ毒ハしよ多話の問ぬく
強くう屋れで笑ってうあやりソリや弱るで
まさ法うもお客まるで見を歳しの
事ざとさやくうをきうをけ海を毒ハ
一下ちでもあり嫌ぬ彫ぐ屋るこ絞ちう
彫うを毒うもうをばよ屋るが二日むうも

とゝと思ひて後生りうり戸をたゝく
者のしわれで内うち張しやと問へば和ハ
はとも坂下うち氣りまた一時乃雪
後被者れ申しあるうの藤人伝吉
のうへ氣りれまし[illegible]ハうあ[illegible]ハ
ぬうと問つで陸うあ[illegible]ものうちうて
笑くとうりうしうう絶入るもうり家
長き出きりうをはなくしやあれも
いそぐうりうしうあんざとうあ張うり見
の色ぐムうそをうあ辛泥共二之の色白

なき事驚る男驚をかゆ田よ細分の報告
いきる形りうう通つうさがうあうなとうへ
ろぐうそをうぐ出うりまた越かうそう氣
りまたと問へで紙うしの方へ行ふが越
うう後りうと中うそのう後をうんざとうば
ハアうそをぐ出うりまたうう氣りまたやど
うそ海をひうをう氣りまたうう
あうん出き張ぐこうきたとうつ出行
ぬうそをうう一形うしうきううて戸和
をうく言仲のうへうをハ絶うあう後

しんるゐ〳〵私儀ぞ法名ハ五分二ぞく
死で孫〳〵ゑ迄繁昌日兄のいゑ絶家ちや
絶〳〵家都くの事り合をたのゝあすれ
出ゑ出ん〳〵のゞ絶〳〵〳〵の
〳〵〳〵法小〳〵ひ自あよのり法名を名和
〳〵出し連〳〵ゑふ屋七八丁も行
〳〵命ゑ後自の〳〵地知を拵しつゝ
大野まゑ沖〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵せまく
沖〳〵れまゞ嘉数〳〵あれ〳〵ん
の大勢を残ゑ人ぞセサ〳〵れふく

〳〵引〳〵ら〳〵義後も〳〵ゑ沖〳〵
法名ハ〳〵〳〵法〳〵る幼ゑく法〳〵の長
拍〳〵逆入孫〳〵〳〵ゑ絶〳〵ゑ特
〳〵法〳〵を出し天宮ハ毎の古絶
帽子ハ色〳〵隠し小絶の小神ふ中幅
の笠〳〵あ〳〵結ぞセ枝〳〵〳〵ぶ
ぶん絶〳〵ゞ肩〳〵魚〳〵し
拍〳〵ゑ〳〵も田舎の法毎が江戸尺絶
出出〳〵〳〵色色〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵
〳〵命〳〵〳〵〳〵〳〵法〳〵ハ数〳〵〳〵

色彩をかぢめこきくれなゐの紙に
ひり門あををえれば大門に初き詩
漢拠所いくつゝ性しに法師ふるとえれば
まさるを紙に詩のあり来かと思ひて詩
く彩がおけ大地にてこれきり歌あり
量を手を撫色八湯さ毎ぞした来ざ
手彩ゝしれと肩よ引ゝ引手を
くれ稼よ八幡屋ゝ思ふを考ふ湯を
そぐゝ少しくゝ地名ゝ酒
多をしくえれぞふ思ぎや永陽へ

ほを考ゝ考ゝ考ゝ彩の紙に法師を人を
そたしくゝきけ酒日に法師西寺ゝて
毎ゝ考ゝを考ゝたゝあ時度嘆ぶん
くゝ毎をあさむきゝゝ嘆の重作ゝ
日かれ法師ゝて法吉乃神を嘆
の稼ゝる最科のお鶯ゝ色ゝ
よりゝ付度れ大部ぎを拠ゝを
歌ゝ一合ゝも乃べきゝ嘆ゝよ
おちゝるづき紙紙考紙ゝを
一度の彩ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まつ金のある者ハ先くあんまをいふも安逸
ぐ稼行きくべき事なり上田八丈
花色繻子の帯ハ稼行者
なんその他りきんくるる金ぐ
ゐ惜れ色ぶかくなる事をそれ也
ひとりのもの蔵つ米ぐ
ひ度のもの米ぐ
うれ用と愛惜る者でき色をそるし
みうるも七割とるものゞ之
稼ことりかるに付人ハ物を破る
ものハ人ハ色欲深きもの

服ぶん
ぶる事ハ古今世をあけ
てかゝる角ぶ昔婦女誓曰我不跨一
角仙頭不出山果然各見白脛而墜有以
矣哉於戲色之毀人也可不慎乎又人ハ
ものゝ高世風もせゞ撿約をのゝ
くゝたゞ金ハ海ものゝ事ハ
とあがひ書ものゝ恋ハ
ハ書のゝ私二ヶ切ぎ
ハ食乃ゝ
ものゝ味噌乃世

[illegible]も金は番とするやうあしく
あれをうばがおし常ぶかるとをとこ
ふるつく懐より金を快ぐ心はさる極あし
く意地といふ[illegible]はあれば家をとん[illegible]
くをいふとあり身あぐ金はの[illegible]事
を第一勤めはやしよ[illegible]世るの繼りも
きあり[illegible]とをれきてゝめんり事程
御ものれハ撿約をあるゝものゝ[illegible]あけく
ゐハ己が身を[illegible]とをつゝ[illegible]ら[illegible]り身
ても[illegible]生活をを人をゝ[illegible]ぬ[illegible]が

多い大工が流[illegible]も 靜則常安儉則常足
といふ事あるこゝをもをき行ぐ金が[illegible]
つゝも[illegible]でよいとをふ[illegible]ば百[illegible]
ゝ[illegible]で千[illegible]仕ゝ千[illegible]ゝ[illegible]千兩
ゐ仕たゝ[illegible]ハ[illegible]万ゐ十万ゐを
をゝ仕ゝ[illegible]ぐゝ[illegible]も[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ばゝ[illegible]ば[illegible]ば[illegible]利欲むさぼ
のゝ[illegible]知足平樂多貪則憂知
足者貧賤亡樂不知足者富貴多憂と
[illegible]ぐ[illegible]金を多ゝ[illegible]ぐ[illegible]ゝの

俗なる事ハ、ゆゑん祭りのうろ[illegible]
時気毒事なる事へ[illegible]
はのり[illegible]をかさ[illegible]
服をやく[illegible]
[illegible]
まへ[illegible]四五十両の資[illegible]
事を[illegible]
[illegible]も今ハいや[illegible]事よりでも三十
年[illegible]
時の百ヶ日までハ新へのしたかしきを

わ[illegible]のうを今わ[illegible]
さ[illegible]
をい[illegible]
一世の中ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]なゆゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]ハ今日[illegible]
[illegible]

多ひ人間ぐぶ五十年くらい曹子建が
詩に人生度一世去若朝露晞とあるが
まことに朝露も消れぬ事は命をもつ人も
千歳もいきる中に欲心うちて所に
光陰ともせ中に物の幻相をいう為るぞや
今ちかきもの極よりきしるが世もん
なる人をも惜まれぬ仁心の言あるとば
法華経かしを引て渡りる縁まくとも
鬱昌まぐしけ中なる者を冥者なれども
うぶぐ能ひと知るる所なるべし

一生をのうちひ多しかしてふ事ふ富貴
八如浮雲とあれぞ世ばけあやうい事
をうらぬるすじや仏こ法をもつて考
ル世界法しを貪るも貪る幻代
惜じ程く小金ぐ所を今いふとき言
のひとなるべ物をいつ世風俗の
まず西世ずして明友よ新しむも実
者をもつく計で一生天命迄
かるまぐ為り世界中の風俗をうる
思ひぐれぬ法いぐよう考ふ

くるのしゝ笑ひすゝしのくまをうと思へばたちまち
消て失ぬ此物ハ蛍ハ蛍ハ蛍